


— Breeze from the field of thatch-grass —

2006年10月30日  
 森林塾青水  
 事務局便り  
**茅風通信 19号**



ウルシとコマユミの紅葉 撮影三好正子

7月～10月の活動報告(事務局)…………… 1  
 特集；フットパスづくり-青木沢峠の復元  
 青木沢峠の復元/川端英雄…………… 2  
 青木沢峠の思い出/梶山茉莉…………… 3  
 昔の道を歩いて  
     /藤原中学「昔の道を探す」クラブ…………… 3  
 森林塾青水の定期活動に参加して/林和彦…………… 4  
 藤原村・熊見聞録-当世クマった事情? /清水英毅 4  
 日本造園植物研究会が見た上ノ原の森/山崎誠子… 5  
 11月～3月の活動計画のお知らせ(事務局)  
     第5回講座「モズ村・ふじわら」のご案内… 8  
 編集後記～塾長のつぶやき～…………… 9  
 別冊 特別寄稿；フォトエッセイ  
     「春の野焼きとその後」/片田満廣

7月～11月の活動報告		事務局
7月7日(金)	浅川, 清水が文化庁訪問、「文化財の森事業」の進捗状況ヒアリングと当方の活動状況報告。	
7月13日(木)	藤原中学校を訪問。塾生5名が雲越先生と面談、9月の青木沢峠に生徒さん達の参加をお勧め。	
7月14日(金)	麗澤中学校「水源の森フィールドスタディ」・1年生108名の受入れ。親男さん、泉さん、佐山さんありがとうございました。広川塾頭以下、塾のスタッフ12名の皆さん、ご苦労さまでした。	
7月24日(月)	川越小学校「里山探険クラブ」・5年生31人の受入れ。湯本さん、高野さん、内野さんご夫妻、お疲れさまでした。	
8月19日(土) ～21日(月)	日本造園植物研究会の一行11名の皆さんを上原、サンワみどり基金「水源の森」、田代湿原、自然花苑にご案内。担当=清水、(別紙・山崎事務局長レポートご参照)。	
9月9日(土) ～10日(日)	第3回講座「モズ村ふじわら 青木沢峠を開く( )」開催。地元から7名、藤原中から6名、塾より15名の計28名の参加。(別紙・特集ご参照)。	
9月7日(水)	森づくりフォーラムに松井理事を訪問。11月共催予定の「茅草体験ツアー」の事前打合せ。	
10月14日(土) ～15日(日)	第4回講座「モズ村ふじわら 青木沢峠を開く( )」開催。日帰りを含め、計13名の参加。初日夜、地元の皆さんと町田社長、木村さんにも来ていただき、11月のカヤ刈り作戦会議。親男さん、高田さん、久さん、三郎さん、利根男さん、ありがとうございました。	
7月13日、23日、 9月6日、9日、25日、 10月4日、19日	計7回にわたり「藤原ガイドマップ」作成チームの打合せ・検討会開催。	
7月5日、9月6日、 10月4日の 各月第 水曜日	月例幹事会開催。	

カモシカの母子 撮影三好正子

## 特集フットパスづくり-青木沢峠の復元

### 青木沢峠の復元

川端英雄

9月9日(土)晴。内野さん夫妻の手になる豪華・盛りだくさんの昼食をすませて、師入中区集落センター前に集まる。今日は、40年ほど前まではひと山越えたところにあった青木沢集落への生活路、通学路として使われていた古道、「青木沢峠越え」のルートを整備する予定。

目の前に黄色く波打つ稲田。その向こうには幾重もの青い山々。山の奥には新潟の明るい空がある。その昔、青木沢から押し出してきた泥流が目の前の西集落を覆い、以来田は深田となって苗植え、稲刈りは難渋を極めたとか。稲穂がなびいている田んぼからは、そんな歴史は窺えない。

思いもかけぬ古老達のメンバーが我々を迎えてくれる。林勤市さん(青木沢組長) 影山喜作さん(藤原観光組合長・奥さんが青木沢出身) 馬庭さん(宝台樹民宿副組合長・源流太鼓の普及に一生懸命)のお3人は初顔合わせ。林三郎さん(師入組長) お馴染みの林親男さん(お母さんが青木沢から嫁入りした)や林久さん、高田保さんなどの顔も見える。地元会員の広川さん、町役場の木村さんもいつもながら控え目に親男さんの声かけでこれだけのメンバーに集まっていた。

加えて、今日はまた珍しいお客さま。藤原中学校・「昔の道を探すクラブ」の生徒さんが4人、先生も2人。一同、大歓迎!!



峠のブナ林 撮影三好正子

林勤市さん(84歳) われわれ森林塾が青木沢峠道に入ることを、9月1日の集落の寄り合いで関係者の了解を得ていただいた由。目立たぬ協力がここにもある。昭和3年に高等小学校を卒業するまでの11年間この峠道を通い続け、皆勤賞をもらったと。

師入の登り口から峠道に入る。しばらくゆるやかに登り、大きくカーブしたところにある「松窪」をショートカットすれば、「中の馬籠(馬の休憩所だそう)」大噴火した武尊山から飛んできたであろう大きな岩が露出している「岩坂」を過ぎれば、そこはもう「峠」。松の根方に腰掛けて肌に風を通し、かたわらの十二様にぴよこんと頭を下げて駆けるように道を下る。曲が

りくねった峠道をとこところ近道をして、「金比羅さま」「庚申さま」を過ぎるともうそこは青木沢集落。小学校は近い。

ショートカットした道のことを、地元では「スグシ」(近道)と言ったそう。道々、ヤマブドウ・アケビ・サルナシ・クワの実などをほおばって通ったんだろうな。

冬、雪が積もると集落ごとに責任をもって雪かきをして道をつけたそう。峠道を、おやじが「コザレイ(ブナ板を使った雪かき用の道具)~新潟ではコスキ、福井ではバンバと云う~」で道を開けてくれたことを覚えていると、影山さん。

みなかみ町には谷川岳・武尊山・巻機山・笠ヶ岳・至仏山と、百名山のうち5つもあるぞとか、みなかみ町は「水のへそ」だとの紹介話も出る。

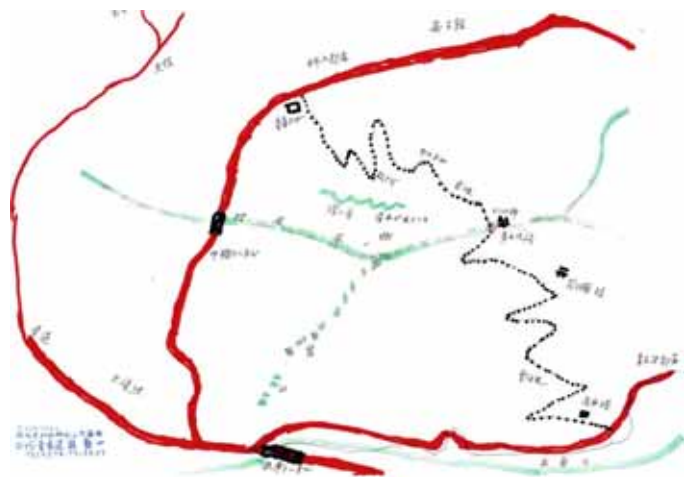
「水のへそ」what? 大水上山は日本の4大河川:利根川、信濃川・只見川・阿賀野川の源泉だからだ。「水のへそ」なんて、なんてナイスなキャッチコピーだろうと思う。全国に広めたいものですね。

さて、肝心の古道を開くはどうなったか? 実は、林幸男さん(田園構想委員会委員長・今日は来られていない)と林三郎さんがその昔、峠道を通った懐かしさもあったので、チェーンソーや鎌などを使ってあらかた古道の下整備をしておいてくれたものだから、我々の作業は、はみだし草や枝などを切ったり除けたりする程度で終わってしまい、若干物足りない気持ながら作業は完了。

でも、藤原中学校の先生、生徒さんには見るもの、聞くものが目新しいらしく、新鮮な驚きの声が続いていた。灯台もと暗し、は神代より続くらし、か。

今日、眼にはいった植物。

キブシ、ハウチワカエデ、ミズナラ、イタヤカエデ、ハクウンボク、アブラチャン、ハリギリ、ツリフネソウ、オオモミジ、カエデドコロ、ブナ、モミ、ホオノキ、サワシバ、チャボガヤ、オオバクロモジ、ミズメ、メグスリノキ、オオカメノキ (以上 原著作者 海老沢秀夫氏)



林勤一さん作成の地図

葛ずるずる。  
熊うろうろ。  
蝶々ひらひら。  
バッタびよこびよこ。  
トンボついつい。  
と言うのが藤原の印象です。

青木沢峠を拓く為の二日間の滞在の内、一日目は遅刻をした上貧血で倒れ、私は使い物になりませんでした。

二日目の朝、「雪割草」を出た後に、まず茅場を見せて頂きました。茅場には背の丈ほども草が茂り、道の両側に壁がある様でした。湧水まで歩いて行く途中、壁の様に茂った草にトンネルの様に穴が空いていました。熊が通った跡かも知れないそうです。と言う事は熊に遭えるかも知れない。熊ベルの音にも気付かず呑気に昼寝をしている熊は居ないかと思いましたが、(起きている熊は少し怖い)熊に遭遇する事はありませんでした。

湧水で手を洗い、山を眺め、トンボを眺め、休憩した所で青木沢峠へ出発です。峠はあらかじめ藤原の方が木を找っておいて下さったそうで、一日目の作業も済んでいた事もあり、すっきりとしていました。地面はまだふかふかとしています。木の枝を道の脇に除け、木に絡まった葛を找ります。葛を找る作業が中々面白く、鋸で葛の根元を切ってから蔓の先を持ってずると引っ張ると木がバサリ！と起き上がり、完了です。そんな作業をし、峠を降りると汗だくになっていました。トンボがついついと飛ぶのを眺めながら、藤原の方から頂いた胡瓜といんげんを食べます。昼食の後、ペットボトルに清水を汲み、手を洗い、いよいよ帰る時となりました。

次は野焼きも体験してみたいと思います。

### 昔の道を歩いて 藤原中学昔の道を探すクラブ

地元・藤原中学校の「昔の道を探す」クラブの生徒さん達が、塾の活動に合流してくれました。学校でやっている『藤原学』という総合学習の一環です。以下は、四人の生徒さんの参加レポートです。(事務局)



撮影三好正子

1年 富岡 瑞季

昔の道を探す、という調べ学習をやっていて、土曜日に昔の道を教えてもらい、ありがとうございました。昔の道だから、とても荒れていて、歩きにくいと思っていたけれど、道をきれいにしてくれていて、思った以上に歩きやすかったです。師入から青木沢まで歩いてみて、色んな発見がありました。十二様の話や、昔、道をどう使っていたか、など、色々教えてもらって、とても勉強になりました。道を歩いている時は、道がきれいなので楽しく歩くことができました。植物の名前も少し覚えることができました。本当にありがとうございました。

私は、まだそんなに昔の道を歩いていなくて、知らないことも、まだまだたくさんあります。そんな中、いっしょに歩いてもらい、とても助かりました。これからも、がんばっていきます。ありがとうございました。

2年 中島 未来

昔の道をいろいろな人達と歩きとても楽しくて藤原中の総合の勉強になりました。それから、歩いている時に食べ物をもらったりなど本当にうれしかったです。わからない所があればすぐに説明をしてくれるのでとても助かりました。

特に印象的なのは、歩いた道が登下校をしていた道だなんておどろきました。

時間をかけて登ったのにそれが毎月となると大変だな、と思いました。それから、帰る道でもめずらしい白い花が咲いていて見れてものすごい発見でした。

昔の道は思ったより時間がかかりましたが、一緒に登った人達が親切にしてくれたので、楽しく登れたと思います。次の山登りも一緒に登りたいと、思いました。昔の道を歩いて木などの説明や一緒に登ってもらえてありがとうございました。

2年 雪越 恵

今回、師入から青木沢までの道で、来ていただいて、ありがとうございました。

私はまだ、師入から青木沢までの道を知らなかったのでもともと良く勉強になりました。最初は、とてもなだらかで、歩きやすかったのですが、どんどん山の中へ入っていくたびに、歩きづらくなっていきました。途中、しかのフンを見つけたり、クマのツメあとらしき所もありました。あと、上から見ると赤くて、下から見ると白い花も見つけました。私は、まだまだ私にも知らない植物があるのだなぁと思っていました。そして、切った所から、いい香りのする木がありました。私は、ハーブかな、と思っていたら、いい香りのする木をくれた人は、「それは、クロモジというのよ」という感じで教えてくれました。私は、ハーブ以外にも、こういうのがあるのかなぁ、と思いました。他にも、いろいろ教えていただいてありがとうございました。また、きかいがあったらまた、いらっしゃって下さい。本当にありがとうございました。

2年 戸部 絵里南

今回、師入から青木沢までの道を歩いてみて、昔の道の楽しさを改めて知ることができました。みなさんと歩いていると、道の途中に、はえている木や花の名前なども聞いて、とても勉強になりました。普通の授業では、歩くことに真剣で、木や花をゆっくりみることがありませんでした。昔の道は、危険なところがたくさんありますが、今の道を歩いていると、植物をゆっくりとみることがあまりありません。少しでも多くの人に、昔の道を歩いてもらい、道を歩くことの楽しさをみんなにつたえていきたいと思いました。また、みなさんと昔の道を歩くことがありましたら、ぜひとも、呼んでください。

とても良い勉強になりました。ありがとうございました。

### 森林塾青水の定期活動に参加して 林和彦

13日(金)業務終了後、古川係長と私の2名にて、戸田市経由にて群馬県水上町の私の実家に直行。翌14日(土)10時、上越新幹線・上毛高原駅に集合、森林塾塾長・塾員の方々と車で水上町の事務所に向かう。

事務所の庭にてガーデン昼食をとる。清水塾長よりメンバーの方々のご紹介をいただき、また併せて私達の紹介もしていただく。

職業も参加地域も実に色々、さすがに年齢こそOBといえる方々(先輩)が主流だが、みなさん気さくで、まだまだ、ひよっ子の私達にも気軽に声をかけていただき、とても楽しい雰囲気。温かいきのこ汁を囲んだ昼食にて、メンバーの方々と楽しく会話させていただいた。



その後、入会地を先行して見学させていただき、原野の散策をする。十郎太の泉にて、天然の水、まさに天然水を飲む。これが水？って顔して飲んでた古川君が感激！消毒なんて縁のない自然の恵みに、ペットボトル持ってくればよかったと、しきりに悔やんでいた。

再び、他のメンバーの方々と合流、林道補修工事に向かう。途中、本年の天候不順のせいだろうか？登山道上まで熊棚(熊が栗などを食事した場所)が出現、しばし、恐怖感！どこからか熊に見らてるような気分。休息とともに、食べ後などの調査もした。

(野生動物は強い！栗なども1粒も無駄にせず、しかも綺麗に食べる)それに比べて、私達人間の、なんと無駄が多い事か！山林の中でこんな反省も自然にでてくる。自然は尊い！全ての生物の先生だ！考えたら、対面の宝台樹スキー場には、それこそ十数年もきているのに、反対側の雪原の下は見たこともなかった私。ここは、冬来るものと勝手に思ってた。こんな素晴らしい自然が残っていたんだ・・・と再認識！



自身、樹木の名前等、多少は知っていたが、塾長の知識の豊富な事！驚き！これも好きこそものの・・・という事か！また、メンバーの方々も山についての知識が豊富。正直話してるだけで、楽しく勉強になる。学校の理科なんて目じゃないぞ！

都会の学習塾などで勉強する事も、長い人生においては大事かも知れない。でも年に何回かでもいい。こういう会に出席させていただいて、大自然の中で、素直に驚き、共感できる事の素晴らしさ！

これは、学校でも塾でも教えてくれない。ましてこんな貴重な体験はナオサラ！なんか、自分の体の中で、働きだしてから、ずーと忘れていた何かが目覚めた気分でした。気づかしてくれた塾長はじめメンバーの皆さんに感謝するとともに、あの自然が自分の田舎にあるという得した気分、自身、もう一度、自分や周りを見つめ直してみたいと思いました。塾の皆さん、本当にありがとうございました。

### 藤原村・熊見聞録-当世クマった事情？

清水英毅

「青木沢峠に入ります」と言ったら、地元の皆さん異口同音に「クマに気をつけて。庭先まで、しょっちゅう来てるから」と。上ノ原に入るときも同じご注意をいただいた。

そんな訳で、今回(10月14日~15日)も全員、熊鈴腰にフィールドへ。以下は2日間にわたるビックリ見聞録。

民家の周辺にも熊ダナが!! ~青木沢峠の入口近くや立教大・山の家の敷地内などあちこち、いずれもヤマグリの樹上に。今年はブナの実のなり(結果)が悪いせいか、クリノキ上につくるケースが目立つ。ヤマグリは豊作なのかな・・・。

器用で賢い熊 ~熊ダナの樹下にはおびたしい数のクリの穂と皮が散乱。いずれも、きれいにむかれて、中味は空っぽ。たまぁ~に、むかれてない皮つきがあって、手にとってよく見るとなんと、虫喰い!! 熊さん、食べないでも不味いってわかるのかな……。



撮影三好正子

ビールを飲む熊!? ~上ノ原からの下り坂をゴミ拾いしながらくと、民宿「上の原山荘」の前の路上にビールの空缶がころがっていた。見つけた三好さんが手にしてビックリ。人間では絶対出来ない状態に缶がまん中から引きちぎられていて、中味は空っぽ(写真参照)。全員、「エー」と言って絶句。酔っぱらい熊! ま、車には乗らないだろうから、いいか。



撮影三好正子

昨年はブナの実が7~8年ぶりの大豊作だった。お陰で、熊さん達のファミリーはベビーブーム。ところが今年是不作。食糧危機で山から里へ進(神)出鬼没(?!)。北朝鮮の真似はしてほしくないが……。いずれも、共生はむずかしい。

虫喰いの栗食べのこす熊もいて

## 日本造園植物研究会が見た上ノ原の森

山崎誠子

私が森林塾青水の塾長清水さんに紹介されこの上ノ原の森を訪れたのは今年で2回目となります。前回は昨年8月のお盆のころ。私を含め、清水さん、あと大人二人と子供二人の合計6人で茅原から、森までめぐりながら、清水さんにこの入会山の歴史、現状、これからを聞きながら、植物をチェックして、「ここはいいところだなあ」と思い、ぜひまた来ようと思ひ、今年また訪れる機会をつくりました。私は、日本造園植物研究会という樹木の勉強会の事務局をしています。東京農業大学造園学科樹木学研究室(現在同大学地域環境科学部造園科学科造園樹木学研究室)のOBが元教授の林弥栄先生(没1991年)と卒業後も勉強を続けようと思われた会で、日本の樹木について観察会を通して勉強しています。会員は、造園関係(設計、施工)、地方公共団体の公園関係の職員、緑の相

談員、樹木医、樹木図鑑の執筆者や現役の大学生等200名ほどです。東京を中心に2ヶ月に一度観察会を行い、毎年夏は2泊3日の合宿勉強会を開催し、関東周辺の植物の名所を訪れて22年になります。主に長野、群馬、山梨がその合宿先となり、群馬では、片品、赤城、榛名、等??を訪れています。水上地区はその隣の尾瀬、武尊まで来ているのですが、今まではありませんでした。

今回の水上合宿に参加したのは、東京、千葉、神奈川県、群馬からの12名。1日目は自然花苑、2日目はUFJの森と森林塾の上ノ原の森、3日目は水源の森を訪れ、それぞれにタイプの違う森の植物を観察しました。本当に充実した観察会となり、アテンダントしていただいた水上博士の清水塾長の森と緑を見る目の確かさを再認識しました。

さて、今回の観察会で気づいた上ノ原の植物について少し記述いたします。実際に見た植物については後日、リストとしてまたこの紙面で発表します。

植生として水上地区は、太平洋側要素と日本海側要素の重なることが特徴です。上ノ原の森についても日本海側要素のヤマモミジと太平洋側要素のオオモミジが見られ、草本では、日本海側要素のクロバナヒキオコシが咲いていました。上ノ原の景観として面白いのが、原と森の二つがあることです。ミズナラとカエデ類が多い樹木林と、茅場となる原のシーン。それらが水源の森という名にふさわしく、湧き水との関係性(乾いているところ湿っているところ)でまた違ったシーンをつくることです。植物は水のあるところで非常に多くの種が出現します。湧き水や清水が現れるところに面白い植物をみることができるので、皆さんも水を飲むだけでなくその周辺に目を凝らしてみてください。まだ助走にすぎない上ノ原の取り組みは今後も様々な緑のシーンを造っていくことでしょう。原のシーンは野焼きを繰り返すことによりまた違った植物の出現があります。樹木林はササを伐採し、本来ある種の出現を促すようにしていくことはとても大変ですが、楽しみ方の結果が生まれると思います。人が崩してしまった緑、人が使った緑、人とかがわりある緑、人になくはない緑。この上ノ原は??いろいろなことを考え、感じさせてくれる場です。



先日の観察会のときに参加した、  
 住村さんの上ノ原の植物リストを以下に添付します。

8月20日 午後 上ノ原 入会（いりあい）の森

面積 21ha  
 年平均気温 8.7  
 ススキ草原とミズナラ林で構成されている。



## 木本

アスナロ	ヒノキ科アスナロ属	高さ30~40mになり、樹冠は円錐形又は鐘形。
オノエヤナギ	ヤナギ科ヤナギ属	湿地や川岸に自生。葉は被針形で先は尖り、縁に波状の鋸歯。
イヌコリヤナギ	ヤナギ科ヤナギ属	枝は無毛で細くまっすぐ。やや光沢のある緑褐色の皮目あり
バッコヤナギ	ヤナギ科ヤナギ属	枝は初め白い軟毛があるが、後に光沢のある灰褐緑色になる。
キツネヤナギ	ヤナギ科ヤナギ属	下部からよく分枝し0.5~2mになる。若葉の裏に黄褐色の毛
サウグルミ	クミ科サウグルミ属	山の谷筋に良く生える。樹皮は暗灰色でやや深く裂ける。
アズサ（ミズメ）	カバノキ科カバノキ属	樹皮は灰褐色で剥がれ易くサクラに似る。若枝は始め長毛あり
ツノハシバミ	カバノキ科ハシバミ属	葉は互生し、広倒卵形で基部は卵形、若葉はよく紫斑がでる。
ミズナラ	ブナ科コナラ属	樹皮は黒褐色を帯び、縦に不規則な裂け目がある。葉柄は短い
ケヤキ	ニレ科ケヤキ属	樹皮は灰褐色で老木になると鱗状にはがれる。
ヤマグワ（クワ）	クワ科クワ属	樹皮は灰褐色で縦に不規則な筋。葉は互生で不揃いな鋸歯
ミツバアケビ	アケビ科アケビ属	3出複葉で長い柄がある。4~5月葉の間から総状花序を出す
ナワシロイチゴ	バラ科イチゴ属	道端や河原の土手に良く生える。枝は直立し高さ5~30cm
ウヰミズザクラ	バラ科サクラ属	樹皮は暗紫褐色で横に長い皮目。前年枝は黒紫色で光沢あり
オオヤマザクラ	バラ科サクラ属	樹皮は暗い栗色。若葉は赤みを帯び、葉の基部は心形。
ナンキンナナカマド	バラ科ナナカマド属	上部の小葉は大きく、下部のものほど小さい。高さ2mほど
アズキナシ	バラ科ナナカマド属	5~10cmの葉は互生する。重鋸歯があり、裏面は灰緑色
ヤマハギ	マメ科ハギ属	高さ2m程でほとんど枝垂れない。葉の裏面は帯白色で微毛
ニセアカシア	マメ科ハリエンジュ属	樹皮は縦に裂ける。奇数羽状複葉で小葉が3~9対で先端へこむ
キハダ	ミカン科キハダ属	樹皮はコルク層が発達し縦に浅く裂ける。小葉2~6対奇数羽状
ドクウツギ	ドクウツギ科ドクウツギ属	川岸や山地の磯地に生える。2列に対生し表面の三脈が目立つ
コマユミ	ニシキギ科ニシキギ属	ニシキギに似、枝にコルク質の翼が発達しない。
オオツリバナ	ニシキギ科ニシキギ属	深山に生え高さ4~6mになる。脈が葉の裏面に隆起する。
ツルウメモドキ	ニシキギ科ツルウメモドキ属	葉は互生で倒卵形、先に鋭く尖る。縁に鈍い鋸歯があり、無毛
オオモミジ	カエデ科カエデ属	山野谷間によく生える。掌上に7~9裂し、裂片が広い。
ヤマモミジ	カエデ科カエデ属	樹形が柔らかく、葉には荒い重鋸歯があり裂片が尾状に尖る。
イロハモミジ	カエデ科カエデ属	ヤマモミジの小さくしたような葉。低い山地に見られる。
ハウチワカエデ	カエデ科カエデ属	裂片は先が鋭く尖る。重鋸歯で初めは軟毛があるが無毛になる
コハウチワカエデ	カエデ科カエデ属	裂片は狭卵形で荒い鋸歯。若枝、葉柄、葉裏の葉脈に毛がある。
コミネカエデ	カエデ科カエデ属	山地に生え高さ6~8mになる。樹皮は灰暗色でなめらか。
ミツデカエデ	カエデ科カエデ属	小葉は卵状楕円形で荒い鋸歯。裏の脈状に白い毛がまばら。
ヒトツバカエデ	カエデ科カエデ属	葉は丸い鋸歯があり、先が尾状。無毛で裏に側脈がボコボコ
ホソエカエデ	カエデ科カエデ属	葉は広卵形で浅く3裂。裏面の脈の基部に膜あり。
トチノキ	トチノキ科トチノキ属	葉は大形の掌状複葉で対生する。
ノブドウ	ブドウ科ノブドウ属	ツルはジグザクに伸びる。節はしばしば肥厚する。
シナノキ	シナノキ科シナノキ属	樹皮は帯褐灰色で縦に裂ける。葉の縁には浅くて鋭い鋸歯。
オオバボダイジュ	シナノキ科シナノキ属	樹皮は帯紫褐色で厚い。葉は心円形で裏に淡灰褐色の星状毛
サルナシ	マタタビ科マタタビ属	葉は互生し、5~12cmの楕円形で先に尖り、刺状の鋸歯あり。
キブシ	キブシ科キブシ属	実にタンニンが入っていて、お歯黒に使った。
ウリノキ	ウリノキ科ウリノキ属	山地に生え高さ3~4mになる。葉は3~5浅裂する。裏軟毛
ハリギリ	ウコギ科ハリギリ属	樹皮は黒褐色で縦に深裂。葉は枝先に集まって互生。
ミズキ	ミズキ科ミズキ属	枝を扇状に四方に広げる。葉の裏面には伏毛が密生し白っぽい
ヤマツツジ	ツツジ科ツツジ属	枝に褐色の毛あり。花びらに毛があるオレンジ色の花。
イワナシ	ツツジ科イワナシ属	良く分枝し、地をはい、枝が斜上。枝、葉の両面に毛あり。

アラゲアオダモ	モクセイ科トネリコ属	樹皮は暗灰色で、若枝、葉柄、花序、冬芽に粗毛がつく。
ヤブデマリ	スイカズラ科ガマズミ属	山野の谷沿い、川沿いに自生。葉は対生で鈍鋸歯あり。
オオカメノキ	スイカズラ科ガマズミ属	枝は紫褐色で横に広がる。髄は白色で葉に鈍鋸歯がある。
<b>草本</b>		
オクモミジハグマ	キク科モミジハグマ属	モミジハグマの変種で東日本に多い。茎の途中に葉柄の長い数枚の葉が仮輪状に付く。 カニコウモリと違って茎が細い。
ハンゴンソウ	キク科キオン属	キオンと違い葉が羽状に3~7に深裂する。花期7~9月
ヒロハゴマナ	キク科シオン属	山地の日当たりのいい草地に生える。茎や葉に細かい毛がある。
ヨモギ	キク科ヨモギ属	葉は洋紙質で互生し、羽状に深裂する。
ノハラアザミ	キク科アザミ属	葉の裂片に欠刻と刺がある。花は鐘球形で癬毛があり粘らない
ハバヤマボクチ	キク科ヤマボクチ属	山地のススキ草原などに生える。葉は10~20cmの三角状。
ツリガネニンジン	キキョウ科ツリガネニンジン属	サイヨウシャジンの変種。萼片は少し反り返る。
ソバナ	キキョウ科ツリガネニンジン属	茎は上方で枝分かれすることがある。葉には荒い鋸歯がある
ツルニンジン(ジイソブ)	キキョウ科ツルニンジン属	山麓や林の中に生える。根が太く朝鮮人参に似ることが由来。 傷つけると白い乳液が出て臭い。バアソブもある
オミナエシ	オミナエシ科オミナエシ属	葉は対生し羽状に深裂する。茎の上部で枝分かれし、黄色の花
オトコエシ	オミナエシ科オミナエシ属	全体に毛が多い。葉は卵形か羽状に切れ込み、鋸歯がある。
ハエドクソウ	ハエドクソウ科ハエドクソウ属	低い山の林下に多い。昔根の絞り汁でハエ取り紙を作った
クルマバソウ	アカネ科クルマバソウ属	茎は20~30cmで枝分かれしない。葉はつやがあり中脈目立つ
オオバコ	オオバコ科オオバコ属	葉は全て根生し、葉柄と葉身の長さがほぼ同じ。
ウツボグサ	シソ科ウツボグサ属	日当たりの良い草地に生える多年草。根元から群がって生える
ミヤマトウバナ	シソ科トウバナ属	茎にはほとんど毛がない。葉は狭卵形でまばらに毛。多年草
ヤマハッカ	シソ科ヤマハッカ属	葉は卵形で葉柄の両側に翼がある。枝先に長い花穂をつける
クロバナヒキオコシ	シソ科ヤマハッカ属	葉は長卵形で質が薄い。花序の先に暗紫色の唇形花をつける
カメバヒキオコシ	シソ科ヤマハッカ属	東北から関東、中部に分布。茎に下向きの短毛あり。
ヤマルリソウ	ムラサキ科ルリソウ属	湿り気のある所に自生。根元の葉は大きくロゼット状
イケマ	ガガイモ科カモメヅル属	多年生のツル植物。茎を切ると白い乳液が出る。
タニタデ	アカバナ科ミズタマソウ属	タデに似る。茎は20~50cmで節に赤みを帯びる。互生
フモトスミレ	スミレ科スミレ属	葉の表面に毛があり、しばしば葉脈に沿って白斑がある。
コボタンヅル	キンポウゲ科センニンソウ属	関東から中部に分布するボタンヅルの変種。2回3出複葉。 小葉は細く荒い鋸歯がある。そう花は毛がない。
キンミズヒキ	バラ科キンミズヒキ属	茎や葉にも毛が多い。葉は5~9枚の小葉からなる。細い花穂
オカトラノオ	サクラソウ科オカトラノオ属	花穂の軸とともに白い毛があり、花穂は10~20cm。
チドメグサ	セリ科チドメグサ属	葉は互生し葉柄が長い。4~10月に白色の花が集まって付く。
シシウド	セリ科シシウド属	山地の斜面ややや湿り気のある日当たりの良い所に生える。
シロバナノヘビイチゴ	バラ科オランダイチゴ属	深山の日当たりの良い草地に生える。実は芳香がありおいしい
トリアシショウマ	ユキノシタ科チダケサシ属	深山の林内や草原などに生え、先端に白い小花を多数つける
ヤグルマソウ	ユキノシタ科ヤグルマソウ属	深山の湿り気のある場所に自生。根生葉は5枚の小葉からなる
イタドリ	タデ科タデ属	日当たりの良い斜面や荒地に生える雌雄異株の多年草。
アカソ	イラクサ科カラムシ属	山野に多い150~80cmの多年草。葉は大きく3裂する。
ヒトリシズカ	センリョウ科センリョウ属	葉の鋸歯が大きく、表面にテカリあり。茎の先に4枚の葉。
フタリシズカ	センリョウ科センリョウ属	葉の鋸歯が細かく、テカリはない。対生する葉が輪生に見える。
オニドコロ	ヤマノイモ科ヤマノイモ属	葉は互生し、円心形で先は尖り無毛。葉柄が4~7cmと長い
ヤマジノホトトギス	ユリ科ホトトギス属	茎の先端と葉の脇に毛の生えた花柄を出す。
カラフトダイコンソウ		

- 11月3日(金)～4日(土) ; 渋谷区民祭、場所:代々木公園  
 11月3日(金)～4日(土) ; 「茅葺き体験ツアー」森づくりフォーラムと共催(募集締め切り)  
 11月11日(土)～12日(日); 第5回講座「コモンズ村・ふじわら」ススキを刈る  
 詳しくは下記をご参照下さい。  
 2月17日(土)～18日(日) ; 第6回講座「コモンズ村・ふじわら」雪の藤原へ人気のカンジキ雪原  
 散策プログラムです。募集案内は1月初旬に発信します。

## 講座「コモンズ村・ふじわら」 第5回 ススキを刈る

## 参加者募集

今年最後のコモンズは、大々的に茅刈りを行なう予定です。奮って御参加下さい。  
 宿は、湯の小屋温泉の葉留日野山荘です。

集合場所 ・時刻...JR上毛高原駅に10時20分

<上越新幹線>東京 8:52 上野 8:58 - 大宮 9:18 - 高崎 9:52 - 上毛高原駅 10:14

宿 民宿「葉留日野山荘」群馬県利根郡水上町藤原 6289-1

TEL:0278-75-2210 FAX:0278-75-2252

参加費 一般10,000円 森林塾青水会員9,000円

服装 ・持ち物など...長袖、長ズボン、ジャケット、手袋(軍手)など、山歩き、作業に適した服装  
 をお願いします。水筒、雨具も必携です。寒くなってきました。

薄手のセーター、上着などご用意ください。

初日の昼食...暖かい「きのこ汁」をつくります。食器をご持参ください。また、おにぎりなど主食類、  
 その他は各自、持参してください。

緊急 ・当日連絡先...清水英毅携帯(09035752283)

川端英雄携帯(08054154351)

## 【第1日目】11月11日(土)

時刻	内容	場所	リーダー
10:20	上毛高原駅集合		
11:30	上の原へ カヤ刈り作業準備、作業説明	上の原	
12:00	昼食(弁当持参)	上の原	
13:00	ススキを刈る ・刈って、束ねる、立てる		林 久さん 林三郎さん 町田社長
17:00	民宿へ		
18:00	夕食 交流会	民宿「葉留日野山荘」	町田社長 木村さん

## 【第2日目】11月12日(日)

時刻	内容	場所	リーダー
7:00	朝食	民宿	
8:30	ススキを刈る(続き) ススキ草原に侵入した木を切る	上の原 上の原	林久さん 林三郎さん 町田社長
12:00	昼食(弁当仕出し)	上の原	
13:00	山の口終い ・セレモニー、ゴミ拾い	上の原	林久さん
14:00	アンケート、解散		
15:32	たにがわ446(上毛高原駅)		

申込先・問い合わせ: 森林塾青水事務局 = コミュニティデザイン(浅川潔) / 〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷3-60-6-702 E-mail: info@commonf.net

【電話】03-3408-8670 【ファクス】03-5474-0847

申し込みは、交通手段・宿泊か日帰り・氏名・住所・連絡先・メール又はファックスを明記の上、  
 ファックス、メール又はハガキで申し込みください。 申込み締切り日11月2日



9月と10月の2回、計4日間かけて延59人が協働し、再生なった青木沢峠。新しい発見と感動的な出会いの連続だった。

9月9日午後1時半、中区集落センターに関係者・計28人が集合。最年少の井上康太君(11歳)や藤原中学の生徒さん達から最年長の勤一さん(84歳)をはじめとする地元の古老の皆さんまで、老壮青そして地元と市民団体が一堂に会して、一つの仕事に取り組もうとする、いわば「現代の入会」=コモングの姿がそこにあった。塾の活動歴の中でも、正にエポックメイキングな日となろう。

事前準備のお骨おりをいただいた幸男さんと三郎さん、昔をしのいで峠道の地図を描いていただいた勤一さん、そして各方面にお声がけをいただいた親男さん、「藤原学」主宰の雲越先生や当日ご引率の労をおとりいただいた栗原先生たちに、厚くお礼を申しあげたい。絵理南ちゃん、恵ちゃん、瑞季ちゃん、未来ちゃん、来てくれて嬉しかった。また、来てね。

### 峠道はやくも実る山の栗

9日夜、古道の再生プログラムの中間報告をかねて「藤原ガイドマップ」作りの打合せをした時のこと。幹事の武さんがみなかみ町の観光課の人も知らない、地元の宝の山々の存在をお知えてくれた。みなかみ町は上州武尊山、至仏山、平ヶ岳、谷川岳、巻機山と百名山を1町で5つもかかえている、と。しかも、武尊山は山頂を群馬県だけが有する(=頂が他県と境を接していない)百名山中唯一の山であるとも。我々は素晴らしい宝の山々の中にいるんだ!!

10月14日~15日。フィールド周辺、それも集落の住宅近くに熊棚が沢山みられた。開発による生態圏の縮小とブナの実等の食糧不足に沢山。彼等にとっては三重苦のヘレンケラー的状态ともいべき苦境。熊に代表される森の動物たちとどう共生していくのか、まことに難しい今日的課題を再認識。

ナメコ大発生!! 10月15日、十郎太沢左岸の登り坂の道刈りをしていった時のこと。上流右岸の方からオーっという喚声。続いて、「シミズさん、早く来て」と女性陣の大声。沢をまたいで行ってみると、昨年皆で埋めこんだミズナラのホダ木にナメコが大発生。皆さん、まるでマイタケでも見つけたかのごとき舞いあがりよう。三好さんが写真におさめて、内野名人の指導で皆さんはいつくばって採集に夢中。その対岸では、他者者(よそもん)に見つけれない様にと目隠し作業に懸命な川端さん。皆さん、少年少女の昔にかえった瞬間だった。



撮影三好正子

かんたん

蛸の夢。この日は絶好の秋晴れ。ぬけるような天空の青、色づき色づきはじめた山の紅葉、そしてキラキラと風にそよぐ銀色のススキの穂波。耳をすませば、草むらのあちこちから蛸の鳴声。どんな楽器にもたとえ様のない美しい響き。しばし、眼をつむり傾聴。陶然たる夢心地、幸せな秋のひとつとき。

日本造園植物研究会の皆さんを上ノ原にご案内したのは8月のことだった。

初めて、いわゆる権威筋の方々に我々のフィールドを観ていただくことが出来た。

日本海側要素と太平洋側要素が重なる植生。原と森のニッがある景観。そして、水の流れがある原は珍しく面白い、と。フィールドの特色を再認識し、同様に新たな他にない特色にも気付かせていただいた。「まだ、助走にすぎない上ノ原の取組みは今後も様々な緑のシーンを造っていくことでしょう・・・」と意欲づけてもいただいた。超多忙の中、筆をお執りいただいた山崎事務局長に大感謝。

10月中旬、片田さんより「春の野焼きとその後」と題して、素的な詩(句?)つきの写真集をお届けいただいた。習いはじめのパソコンと格闘しながらのご労作にて、そのため季節がうつり秋のカヤ刈りシーズンの完成になってしまった由。これぞ、真の会友!ご熱意に感動、「茅風通信」第19号にして初のフォト・エッセイとして掲載させていただきました。満廣さん、ありがとうございます。今度は、秋のカヤ刈りの詩、お願いします!

梶山茉莉さんからも感性あふれる詩をいただいた。茉莉さんが野焼きを経験されたら、どんな詩を詠まれるのだろうか？

茉莉さんのみずみずしくリリカルな詩と言ひ、岸田さんのほのぼの感覚の句と言ひ、我々も四季折々の森の風情を楽しむゆとりを持ちたいもの。

このところ、例会初日のお昼は自炊が恒例化しつつある。マイカップ、マイ箸持参で皆でワイワイガヤ。毎回、まことに楽しく、美味しく、心温まるランチパーティ。時が変っても場所が変っても、上毛高原の「道の駅」での仕出しコック長役は内野さんご夫妻。いつも、いつもありがとうございます。一同を代表して厚くお礼申し上げます。お手当は出ませんが、今後ともよろしく願ひします！

3年目となった講座「コモンズ村ふじわら」。今年のサブテーマは古道の再生＝フットパス作りだった。5月、6月は上ノ原の木馬道（きんまみち）の再生と須原尾根に向かう滝ルートの新設。昨年までの草原ルート、十郎太沢ルート、ミズナラ林散策ルートと今回の青木沢峠。全部足すと5,6km位になるか。

来年は、藤原中「昔の道を探すクラブ」の皆さんに木馬道を御案内したい。そして、青木沢から平出に通づる芦ノ田峠の道を彼らに案内してもらいながら再生作業と一緒にやってみたい。そんな取組みの積み重ねが、“武尊山周回100kmトレール構想”の具体化につながっていくのでは。

かんたん  
蚺蝉のほろほろほろ夢の原

（青）